

## 「花の博物館」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

歳をとると、花が好きになるらしい。私も若い時は、特に花は好きでも嫌いでもなかったが、「花を眺める」ためにわざわざ出かけたりはしなかった。しかし、今は、花を眺めるのがとても楽しい。昨日も、千葉県の稲毛海岸にある「花の博物館」に行ってきた。博物館というよりは植物園に近い施設なのだが、とにかく屋外も屋内も花であふれた、すばらしい施設である。京葉線・稲毛海岸駅からバスかタクシーで 10 分。施設のすぐ裏は砂浜の海岸で、貝柄拾いなどもできる。毎年、今の季節に友人と出かけている。



「花の博物館の前庭」 ドームは亜熱帯温室



前庭から花で一杯である。ここには毎年、砺波平野のようにチューリップがたくさん咲いているのだが、今

年は一部の区角が工事中で、一面のチューリップ・・・という光景は見られなかった。しかし、ポピーが満開で、南房総を旅行しているような気分になった。どの植物も、人間のために花を咲かせているわけではない。しかし、人が花を美しいと感じるのは不思議である。私は飛んでいる昆虫の目線で、花を撮影してみた。



ずいぶんとちがった印象に見えるものだ。花が虫たちに「私のところにとまって」と言っているようだ。



人は普通、地面にある花を「斜め上」から見ている。しかし、花は真上から見た時に、最も目立つように咲いているのだろう。昆虫の眼には、白い花も白くは見えないらしい。鮮やかに見えるのだろう。どんなフィルターをかければ、「虫目線」の花の写真が撮れるのか、興味がわいた。研究してみたい。